

■中学生部門

食べ物に感謝

滝川市立明苑中学校 2年

中村 優衣

「おいしくない」「もういらない」このような理由で、食べ物を残したり無駄にしたことはありませんか？私は、つい最近まで給食を残すことにためらいを感じませんでした。ですが、とある事をきっかけに給食や普段の食事に対する意識が変わりました。

それは昨年、家で育てていたトマトがきっかけでした。私は野菜を自分の手で育てるのが初めてだったので、毎日毎日一生懸命世話をし、収穫の日を楽しみにしていました。ですが、いざ収穫して食べてみると、とてつもなくまずかったことを覚えています。こんながんばって育てたのに、どうしておいしくないんだろうと思いました。私は、その時初めて農家の人に尊敬と感謝の念を抱きました。私達が普段食べている野菜や果物などは、全て農家の人たちが丹精込めて作りあげた物なのだと実感したのです。このように、自分で野菜を育ててみることによって、食べ物に対しての意識が変わると思います。

私は、給食時などで鶏肉や豚肉を食べていると、時々そのお肉の気持ちを想像することがありました。「痛かっただろうな…。」「怖かっただろうな…。」そんな事を考えれば考えるほど、箸がすすまなくなり食べる事に罪を感じるようになりました。食器の片付けが始まり、続々と捨てられていくごはん、おかず、スープ…。「おいしくなかった。」と言いながら、炒めたお肉を誰かが捨てました。命をもらっているのに、そんな簡単に捨ててしまっているのでしょうか？鶏や豚などのお肉だって、最初から捨てられるために産まれてきたわけではありません。私達は生きていくために、他の尊い命を頂いています。この事を再確認しながら、普段の食事でも残さぬように、感謝していただくことを忘れないようにしてほしいです。

日本の食料自給率は約4割と低めで、残りの約6割は海外からの輸入に頼っています。これは、主要先進国のなかでも最低の水準であることが知られています。それに加え、日本では年間約2000万トンが「生ごみ」と呼ばれる食料廃棄物として出ています。そして、その内の52%が家庭から出される生ごみだということを知りました。このことから、日本の家庭からは年間約1000万トンもの生ごみがでていることがわかります。食料の半分以上を輸入に頼っているのに、年間約1000万トンも生ごみをだすなんて、もったいないし最低だと思いました。もしも海外から輸入ができなくなったら、日本人

はどうするのでしょうか。そこで初めて、自分達がいかに輸入に頼っていたのか、普段の食事でどれだけ簡単に食べ物を捨てていたのか、ようやく気づく事になるのかもしれないね。そんな事になる前に、命の尊さや食べ物大切さに気づき感謝してほしいです。

私は、野菜を育てることにより生産者に感謝の気持ちを抱き、鶏や豚の気持ちを想像することにより、命の尊さに気付くことができました。このような感謝の気持ちを、私だけではなくみんなにもあじわってほしいです。「いただきます」「ごちそうさまでした」食事の始めと終わりに、この言葉に「ありがとう」という意味をこめ、私達がおいしい食事をできることに感謝しましょう。